

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)

事業成果報告書

令和6年3月10日

公益財団法人B & G財団

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)
事業成果報告書

1. 事業の実施期間	3
2. 事業趣旨	3
3. 事業の実施体制	4
(1) 本事業の実施体制	
(2) 本事業の実施スキーム	
4. 事業の内容	5
(1) 事業のテーマ	
(2) 実行委員会	
(3) 事業の実施内容	
ア. 事業概要	6
イ. 目的	
ウ. 取り組み内容	
(ア) 障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツを楽しめる「インクルーシブクラブ」 の立上げと実施	6
(イ) 地域運営委員会の設置と開催	7
(ウ) 指導者研修会の開催	7
(エ) インクルーシブイベントの開催	7
エ. 各実行団体による活動内容	7
・富山県南砺市・兵庫県上郡町・山口県周防大島町・香川県高松市	
(ア) 障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツを楽しめる「インクルーシブクラブ」 の立上げと実施	7
(イ) 地域運営委員会の設置と開催	15
(ウ) 指導者研修会の開催	18
(エ) インクルーシブイベントの開催	20
(オ) 各種会議での事例発表や情報提供	24
(カ) 情報発信	24
5. 事業の成果	
(1) 評価指標および目標	24
(2) 結果と考察	27
6. 今後の事業展開予定	
(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題	27
(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画	28

1. 事業の実施期間

令和5年8月24日から令和6年3月10日まで

2. 事業趣旨

B&G財団は、全国に「艇庫・プール・体育館」からなる「B&G海洋センター」を地元自治体の要望に基づき建設し、無償譲渡してきた。現在は、383市町村（461カ所）の社会体育施設として運営されており、子供たちを主とした地域住民に、スポーツや自然体験活動の機会提供のほか、地域コミュニティを活性化するための各種事業を地方自治体（主に教育委員会管轄）と協働で実施している。

障害者差別解消法の施行など、障がい者の社会参画に注目が集まる中、当財団では2015年度から、身体的、経済的、家庭的な理由により困難な状況にある子供たちの状況を「体験格差」と捉え、その支援に着手。障がい児や児童養護施設に暮らす子供たちなどに「水辺の自然体験活動」などを提供してきた。

そのような中、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催。パラリンピックを機に障がい者スポーツ（パラスポーツ）への関心が高まったが、アスリート以外の一般の障がい者にとっては、気軽にスポーツを楽しむ機会と環境が十分であるとはいえない。

そして、「B&G海洋センター」として振り返った時、B&G海洋センターは、地域の「スポーツとコミュニティの拠点施設」として年間約1,000万人が利用するなど、地域住民に親しまれており、住民や子供たちを対象としたスポーツ等の事業は多数実施しているが、障がい者を対象とした事業は、充実しているとはいえない状況である。

そこで、地域の公共スポーツ施設である「B&G海洋センター」に、地域の障がい者がスポーツなどを継続的に楽しめる環境を整え、スポーツ機会を提供するとともに、障がいのある方とない方がともにスポーツを楽しむ機会も創出することで、健常者の障がい者への理解を促進し、地域での共生社会実現への一助とすることを目的に本プロジェクトに参画することとした。

実施地は、全国のB&G海洋センターから、「障がい者スポーツの推進状況・地域・周辺環境」等が異なる以下の4自治体をモデル地として選定し、自治体との協働で本事業を推進した

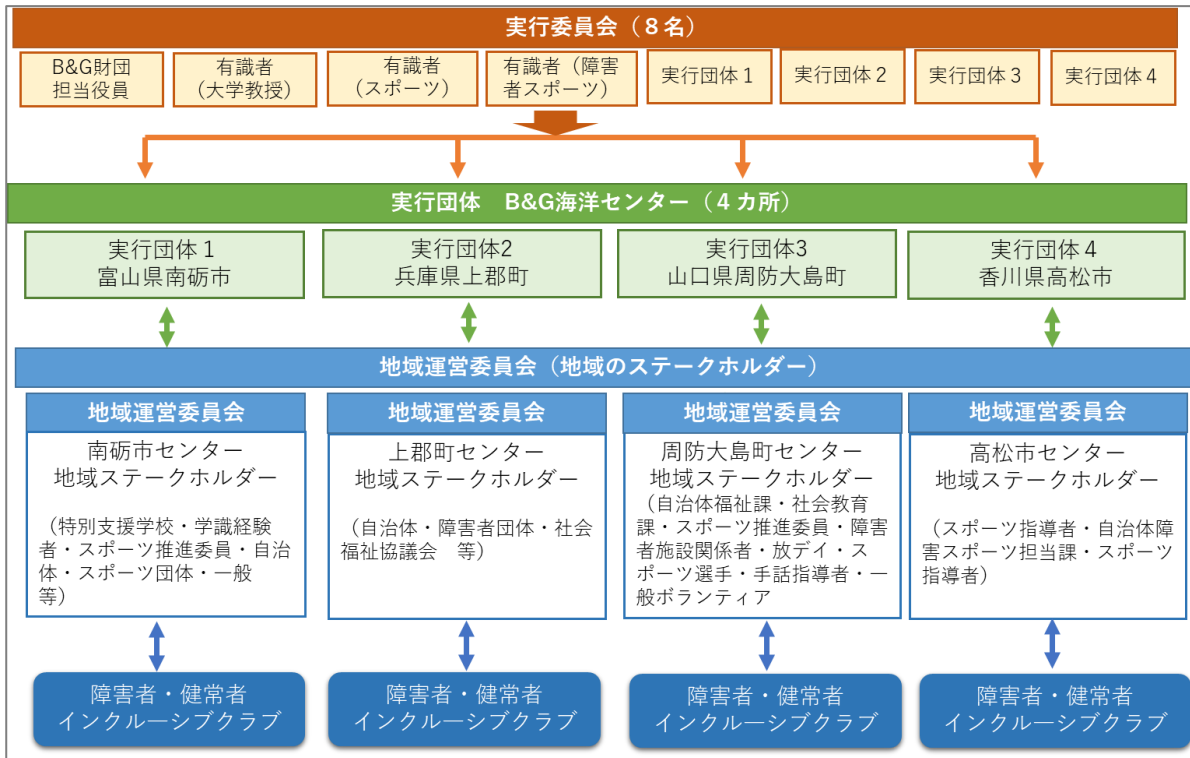
【実行団体】

- | | | |
|-------|----------|-----------------|
| ①北陸地方 | 富山県南砺市 | 南砺市福野B&G海洋センター |
| ②近畿地方 | 兵庫県上郡町 | 上郡町B&G海洋センター |
| ③中国地方 | 山口県周防大島町 | 周防大島町B&G海洋センター |
| ④四国地方 | 香川県高松市 | 高松市国分寺B&G海洋センター |

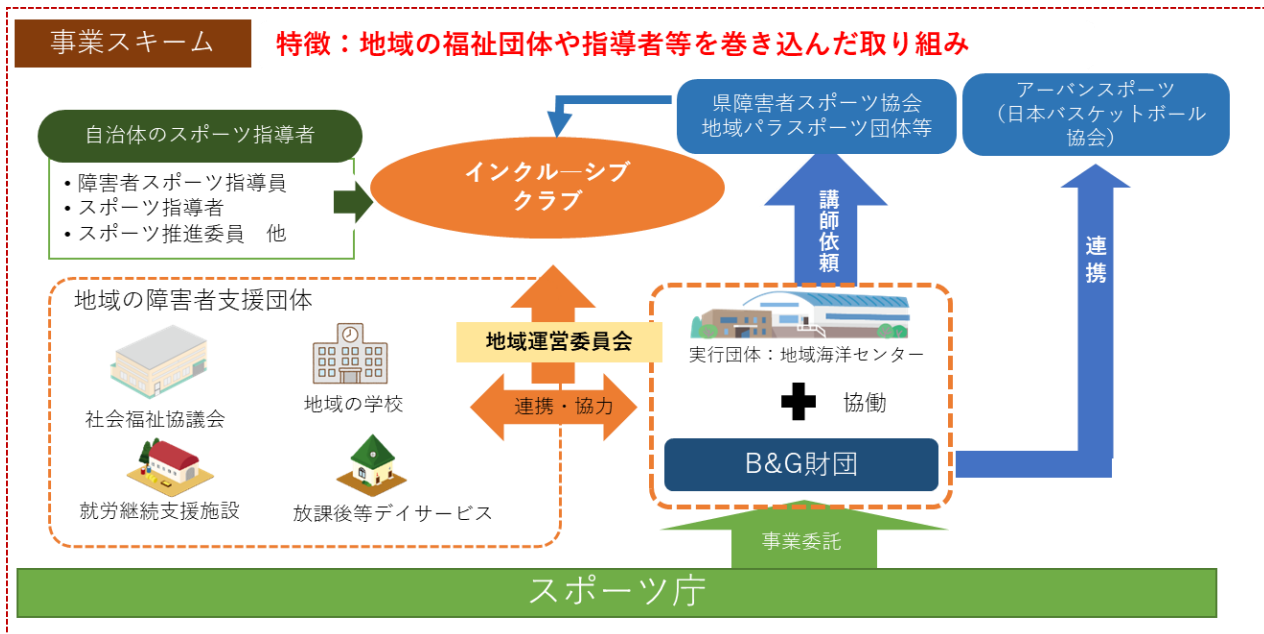
3. 事業の実施体制

(1) 本事業の実施体制

事業を推進するにあたり、有識者による「実行委員会」を設置するとともに、各地域においても障がい者のスポーツ振興等に関わるステークホルダーによる「地域運営委員会」を設置し、情報共有や意見交換を行いながら自治体内での協働体制を整えた。



(2) 本事業の実施スキーム



4. 事業の内容

(1) 事業のテーマ

イ) 地域の課題に対応した障害者に対するスポーツの振興、実施環境の整備

(2) 実行委員会

本プロジェクトを効果的に推進することを目的に「実行委員会」を設置。本プロジェクトの目標達成に向け、各実行団体の責任者もメンバーに加え、各地域の進捗状況や課題等について、情報共有・意見交換を行うとともに、今後の展開方法等についても有識者の専門的立場からの助言や知見を伺った。

(1) 委員名簿

	氏名	所属
委員長	藤田 紀昭	日本福祉大学 スポーツ科学部教授
委員	田口 亜希	日本パラリンピアンズ協会 副会長 (元ライフル射撃・パラリンピアン)
委員	弘田 充弘	公益財団法人日本バスケットボール協会 競技運営グループ 3x3 推進セクション マネージャー
委員	大村 貴則	富山県南砺市福野 B & G 海洋センター (NPO 法人ふくのスポーツクラブ)
委員	種継 武	兵庫県上郡町 B & G 海洋センター (上郡町スポーツコモンズ)
委員	古崎 敏雄	山口県周防大島町 B & G 海洋センター (周防大島町教育委員会)
委員	中西 浩司	香川県高松市国分寺 B & G 海洋センター (公益財団法人高松市スポーツ協会)
委員	朝日田 智昭	公益財団法人 B & G 財団 常務理事

(2) 開催実績

	日程	場所	主な内容
第1回	10月31日	B & G 財団 事務所	【キックオフ】 ・事業趣旨および事業説明 ・昨年度の事業成果と課題 ・各実行団体からの報告（地域の課題や本プロジェクトで目指すところ） ・意見交換 等
第2回	12月19日	オンライン	【中間報告】 ・各実行団体からの進捗報告、課題等に対する意見交換 ・次年度に向けた取組み予定と意見交換・助言

第3回	2月26日	B & G財団 事務所	【まとめ】 ・各実行団体からの年間活動報告・事業成果、今後の事業展開 ・本事業の事業成果報告と課題、今後の展開 等 ・総括
-----	-------	----------------	---

※実行委員会後は、各実行団体においても関係者による「地域運営委員会」を開催。実行委員会
で得られた助言等をもとに、各地域でも今後の事業展開等について協議を行った



第2回実行委員会の様子（オンライン開催）



第3回実行委員会の様子

（3）事業の実施内容

ア．事業概要

各地域にある障がい者福祉団体などを対象に、障がい者が身近な場所でスポーツや身体活動を楽しむ機会提供と障がいの有無に関わらず、障がい者と健常者がともにスポーツを楽しむ環境を創出するため「インクルーシブクラブ」を立上げ、実施する。また、地域の障がい者支援に関係する人・団体・行政担当者などと新たにネットワークを構築し、組織体制を整えることで、障がい者が身近にある公共施設（B & G海洋センター）でスポーツを楽しむための環境と基盤を整える。

イ．目的

- ・地域の障がい者が、身近な公共施設等でスポーツを楽しむための機会創出と基盤作り
- ・障がい者と健常者がともにスポーツに取り組めるインクルーシブな環境作り

ウ．取り組み内容

各実行団体において、以下の4本柱を軸に事業を展開

（ア）障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツを楽しめる「インクルーシブクラブ」の立上げと実施

以下の3点を主として事業を実施

- 障がい者を対象としたスポーツ教室の実施
(ねらい：障がい者への定期的なスポーツ機会と環境の提供)
- 障がい者と健常者が共に参加するパラスポーツ等の体験会
(ねらい：障がい者への理解)
- 健常者（主に地域の子供）を対象としたパラスポーツ体験やインクルーシブ教育
(ねらい：共生社会の実現に向けた地域の子供たちへの教育)

(イ) 地域運営委員会の設置と開催

- ねらい：地域の障がい者スポーツ振興や持続可能な体制作り
- 内 容：障がい者支援やスポーツや教育に関わるステークホルダーを運営委員に選定し、地域の環境や障がい者の状況にあわせたインクルーシブクラブを推進するための定期会合を行う。

(ウ) 指導者研修会の開催

- ねらい：地域の障がい者スポーツを支える人材の育成
- 内 容：障がい者スポーツ・アーバンスポーツ等の研修会

(エ) インクルーシブイベントの開催

- ねらい：障がい者と健常者がスポーツを通じた交流を図ることで障がい者への理解を促進
- 内 容：障がい者と健常者が共に参加するスポーツイベントや大会
インクルーシブクラブで練習したアーバンスポーツ等の成果発表の場も兼ねる

エ. 各実行団体における活動内容

各実行団体において、上記4本柱を軸に以下のとおり事業を実施した

(ア) 障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツを楽しめる「インクルーシブクラブ」の立上げと実施

【まとめ】

各実行団体において、地域の障がい者福祉団体や放課後等デイサービスなどと連携し、新たに障がい者・障がい児が定期的にスポーツ等を行うインクルーシブクラブを立上げ、活動を開始した。地域の障がい者が身近にある公共施設（海洋センター）でスポーツを行う機会を創出したことにより、今までは、単にスポーツ施設と近隣にある障がい者福祉団体との位置づけだったものが、関係性を構築したことで、障がい者が気軽にスポーツを行える環境が整った。

【実績】

社会福祉団体職員等の介助者や支援者も含め「インクルーシブクラブ」の活動に年間延2,482名（うち、障がい者1,138名）が参加した。

【富山県南砺市】

ア. 地域における障がい者スポーツの推進状況や課題と目指すところ

南砺市では障がい者団体が独自でスポーツを行うことはあるが、自治体としては障がい者スポーツ推進へのノウハウが乏しいことから、取り組み事例も少ない。

【目指すところ】

南砺市福野B&G海洋センターは、総合型スポーツクラブでもあることから、本プロジェクトを通じ、障がい者スポーツ教室も導入するなど、市内における障がい者スポーツの拠点施設を目指す。

イ. 活動の特徴

主に放課後等デイサービスに通う障がい児を対象に、定期的なスポーツ機会の提供としてトランポリン教室を実施したほか、障がい者と健常者を対象としたスポーツ体験会や、地域住民を対象としたパラスポーツ体験会等も開催した。

ウ. 活動実績

全 71 回実施。1,247 名が参加。（うち、障がい者：619 名）

エ. 主な対象

- ・放課後等デイサービス（柵サードプレイス）利用者
- ・福野市立福野小学校支援学級児童
- ・地域の障がい者
- ・地域住民（子供含む）

オ. 主な活動内容

アーバンスポーツ（トランポリン）・パラスポーツ・ニュースポーツ 等

カ. 年間活動実績

	日程	対象団体	主な内容	参加者（名）			合計
				障害者	施設職員等	健常者	
1	9月5日・9月7日 9月8日・9月12日 9月14日・9月15日 9月19日・9月21日 9月26日・9月28日 9月29日 ※毎週、火・木・金	放課後等デイサービス	アーバンスポーツ トランポリン教室	103	51	0	154
2	9月10日	南砺市立福野小学校支援学級・通常級児童	着衣泳体験会	5	3		8
3	9月30日	放課後等デイサービス	ムーブメントプログラム体験(音楽を用いたパラバルーンや縄、ボールを使った運動)	10	10	10	30
4	10月3日・10月5日 10月6日・10月10日 10月12日・10月13日 10月17日・10月19日 10月20日・10月24日 10月27日 ※毎週、火・木・金	放課後等デイサービス	アーバンスポーツ トランポリン教室	101	52	0	153
5	10月9日	地域住民（障がい者・健常者）	アーバンスポーツ体験（3X3）、パラスポーツ体験（ボッチャ・モルック）、ワークショップ	10	0	90	100

6	11月2日・11月7日 11月9日・11月10日 11月14日・11月16日 11月17日・11月21日 11月24日・11月28日 11月30日 ※毎週、火・木・金	放課後等デイサービス	アーバンスポーツ トランポリン教室	94	47	0	141
7	11月19日	南砺市商工会青年部・家族等	パラスポーツ体験会 (モルック・ボッチャ等) ニュースポーツ体験	0	30	110	140
8	12月1日・12月5日 12月7日・12月8日 12月12日・12月14日 12月15日・12月19日 12月21日 ※毎週、火・木・金	放課後等デイサービス	アーバンスポーツ トランポリン教室	75	42	0	117
9	12月23日	市内放課後等デイサービス利用者・市内小学生	クリスマス会 (ニュースポーツ体験とレクリエーション)	17	47	16	80
10	1月9日・1月11日 1月12日・1月16日 1月18日・1月19日 1月23日・1月25日 1月26日 ※毎週、火・木・金	放課後等デイサービス	アーバンスポーツ トランポリン教室	74	48	0	122
11	2月1日・2月2日 2月6日・2月8日 2月9日・2月13日 2月15日・2月16日 2月20日・2月22日 2月27日・2月29日 ※毎週、火・木・金	放課後等デイサービス	アーバンスポーツ トランポリン教室	100	56	0	156
12	3月5日・3月7日 3月8日 ※毎週、火・木・金	放課後等デイサービス	アーバンスポーツ トランポリン教室	30	16	0	46
合 計				619	402	226	1,247

キ. 成果等

- ・本プロジェクトを実施したことにより、次期、「南砺市スポーツ推進計画（後期）」に「障害者スポーツ」の文言が明記されることとなった。
- ・地域の障がい児に定期的に運動できる機会を提供し、延 600 名近くの障がい児が参加した
- ・これまで関係性が薄かった地域の障がい者支援団体へインクルーシブクラブをアピールしたことで良き理解者・協力者として今後の活動の発展・継続へと結びつけることができた。
- ・課題は、参加者ニーズが増える傾向にあるが、ハード・ソフト面のキャパシティ不足。



放課後等デイサービスに通う障がい児対象のトランポリン教室



支援級児童への着衣泳体験会



パラスポーツ交流会の様子

【兵庫県上郡町】

ア. 地域における障がい者スポーツの推進状況や課題、目指すところ

障がい者スポーツは、町の健康福祉課が中心となり推進しているものの、障がい者スポーツの知識・経験を有する人材が少なく、新たな人材の育成や確保が課題である。

【目指すところ】

障がい者スポーツは行政内でも管轄が異なるため連携が不十分なところもある。そのため、持続可能な障がい者スポーツ振興を図るため、相互連携を行いながら事業を推進する。

イ. 活動の特徴

地域の障がい者へスポーツ機会を提供すると共に、上郡町はバスケットボールが人気種目のため、「3x3」を教材に健常者への体験会も実施することで障がい者への理解も促進した。

ウ. 活動実績

全4回実施。315名が参加。（うち、障がい者：20名）

エ. 主な対象

- ・町内の障がい者
- ・地域の小・中学生

オ. 主な活動内容

3x3・ボッチャ・モルック・ミニバスケットボール

カ. 年間活動実績

	日程	対象団体	主な内容	参加者（名）			合計
				障害者	施設職員等	健常者	
1	11月26日	上郡町障害者スポーツクラブ・総合型スポーツクラブ・ボランティア団体	みんなでパラスポーツ体験会 (ボッチャ・モルック)	5	35	0	40
2	1月27日 1月28日	上郡町バスケットボール協会、地域バスケットボール協会、近畿・中国ブロックミニバスケットボールチーム	3x3体験 ミニバスケットボール			250	250
3	2月28日	障害者スポーツクラブ・町内障がい者（一般）	ボッチャ・モルック体験	10		5	15
4	3月2日	町内障がい者（一般）・上郡町立こども園	パラスポーツ体験会・ボッチャ	5		5	10
合 計				20	35	260	315

キ. 成果等

インクルーシブクラブの運営をきっかけに、地域運営委員が同じ意識を共有することができ、今後の町内の障がい者事業の推進に向けた機運が高まった。



【山口県周防大島町】

ア. 地域における障がい者スポーツの推進状況や課題、目指すところ

周防大島町のスポーツ推進計画には、障がい者のスポーツ推進として、環境づくりの必要性が明記されているものの、事業の定着化までには至っておらず、事例を重ねていく必要がある。

【目指すところ】

就労継続支援施設、放課後等デイサービスの利用者と健常児を対象としたスポーツ教室を定期開催する。また、将来の周防大島の共生社会の実現に向けて、島の子供たち（小学校・中学校）へのパラ教育にも注力していく。

イ. 活動の特徴

地域の障害者就労継続支援B型事業所「さつき園」の利用者を対象に定期的にスポーツ教室を開催するとともに、周防大島町内の子供たち（健常児）にもパラ教育を行った。

ウ. 活動実績

全12回実施。442名が参加。（うち、障がい者：281名）

エ. 主な対象

- ・就労継続支援B型事業所「さつき園」利用者
- ・周防大島町立明新小学校
- ・周防大島町立大島中学校
- ・地域の小学生（公募）

オ. 主な活動内容

3x3・ボッチャ・モルック・風船バレー・レクリエーション 等

カ. 年間活動実績

	日程	対象団体	内容	参加者（名）			合計
				障害者	施設職員等	健常者	
1	8月25日	町内小学生（公募）	パラスポーツ体験（ボッチャ・ゴールボール）	0		20	20
2	10月20日	さつき園	1回目教室：パラスポーツ体験（ボッチャ）	10	3		13
3	10月27日	さつき園	2回目教室：アーバンスポーツ体験（3X3）	35	7		42
4	11月10日	さつき園	3回目教室：アーバンスポーツ体験（3X3）	27	5		32
5	11月17日	さつき園	4回目教室：アーバンスポーツ体験（3X3）	38	8		46
6	12月1日	さつき園	5回目教室：アーバンスポーツ体験（3X3）	25	5		30
7	12月22日	さつき園・町内小学生（公募） 合同	6回目教室：アーバンスポーツ教室（3X3）と交流会 ※講師（國信敬二郎氏）ほかサポートスタッフあり（7名－支払5名）	30	5	20	55
8	1月12日	さつき園	7回目教室：アーバンスポーツ体験（3X3）、パラスポーツ（ボッチャ・モルック・風船バレー等）	40	5		45
9	1月22日	周防大島町立明新小学校児童（5・6年生）	出前授業：アーバンスポーツ（3X3）&パラスポーツ体験（ボッチャ・モルック・風船バレー 等） ※出前授業として実施（講師：國信敬二郎氏）	0	5	31	36

10	1月22日	周防大島町立大島中学校生徒 (1・2年生)	出前授業：アーバンスポーツ(3X3)&パラスポーツ体験(ボッチャ・モルック・風船バレー等) ※出前授業として実施(講師：國信敬二郎氏)	0	5	32	37
11	1月26日	さつき園	8回目教室：アーバンスポーツ体験(3X3)、パラスポーツ(ボッチャ・モルック・風船バレー等)	40	5		45
12	3月8日	さつき園	9回目教室：アーバンスポーツ体験(3X3)、パラスポーツ(ボッチャ・モルック・風船バレー等)	36	5		41
合 計				281	58	103	442

キ. 成果等

- ・今まで接点が薄かった近隣の就労継続支援施設の障がい者に定期的にスポーツを行う機会と環境を整えることができた。障がい者や施設職員にも好評であったとともに、地域運営委員と施設職員の協力で持続可能な体制づくりにもつながった。
- ・周防大島の子供たちに、パラスポーツや障がい者への関心・理解を高めるきっかけを作ることができた



インクルーシブイベント(小・中学生との交流試合)に向けて3×3を毎回練習。少しずつ上達しました



レクリエーションも実施



町内の子供対象にゴールボールとボッチャ 小学校・中学校への出前授業も実施



【香川県高松市】

ア. 地域における障がい者スポーツの推進状況や課題、目指すところ

高松市は、障がい者のスポーツ実施目標値も定められるなど、市内全域では推進がはかられているが、高松市は広域自治体のため地域差もある。事業実施にあたっては、高松市のスポーツ振興課など関連部署の職員も地域運営委員として参画するとともに、地域住民が参加するインクルーシブイベントは、市内全域から参加者を募り波及効果を高めていく。

イ. 活動の特徴

主に地域の障がい児（成人含む）を対象に、定期的なスポーツ機会の提供として「ヒップホップダンスクラブ」を開催したほか、プールでマリンスポーツ（カヌーやスタンドアップパドルボード）なども実施。

ウ. 活動実績

全7回実施。478名が参加。（うち、障がい者：218名）

エ. 主な対象

一般（公募の障がい児・障がい者）

オ. 主な活動内容

ヒップホップダンス・プールでマリンスポーツ（カヌー・スタンドアップパドルボード・着衣泳 等）

カ. 年間活動実績

	日程	対象団体	内容	参加者(名)			合計
				障害者	介助者・ 家族等	健常者	
1	8月27日	知的障害・障害者（個人）及びその家族	カヌー・ライフジャケット浮遊体験（プール）	24	36		60
2	9月2日	障がい児（個人）	プール感謝祭（カヌー・SUP・BIGSUP）	16	12		28
3	10月14日	障がい児（一般公募）	アーバンスポーツ ヒップホップダンス教室	45	26	14	85
4	11月11日	障がい児（一般公募）	アーバンスポーツ ヒップホップダンス教室	41	27	9	77
5	12月9日	障がい児（一般公募）	アーバンスポーツ ヒップホップダンス教室	41	26	11	78
6	1月13日	障がい児（一般公募）	アーバンスポーツ ヒップホップダンス教室	44	27	12	83
7	2月25日	障がい児・小学生以上	プールでSUP・ライフジャケット浮遊体験会	7	37	23	67
合 計				218	191	69	478

キ. 成果等

■市内の障がい児に定期的なスポーツ習慣を提供することができた。

・「ヒップホップダンスクラブ」を立ち上げ、月1回の練習であったが、子供たちは毎回楽しみながら参加し、音楽が流れると自然に体が動き出すといった習慣が身に付いたことは成果の一つである。保護者からは、ずっと続けてほしいという意見が多く寄せられた。

- 障がいに関わる専門家などとの新たなネットワークを構築することができた。
 - ・講師や高松市パラスポーツ協会など横の繋がりができ、様々な事業に関わることで、障がい者目線でパラスポーツの普及に努めることができた。
 - 高松市内での障がい者スポーツへの関心に貢献することができた。
- 目標の1つであった市内への障がい者事業の推進について、インクルーシブイベントには高松市長も視察いただいたことで、本プロジェクトの事業趣旨と障がい者のスポーツ環境整備の必要性に理解をいただいた。また市内の広報面も充実することができた。



みんなで踊ろうヒップホップダンスクラブ。定員を上回る大人気教室
 プールでのマリンスポーツ体験会（ビッグサップ・カヌー）

(イ) 「地域運営委員会」の設置と開催

【まとめ】

障がい者支援に関係する団体や人物など、本プロジェクトに関わる地域のステークホルダーとインクルーシブクラブやインクルーシブイベントについて協議や意見交換、情報共有を行ったほか、地域における障がい者スポーツ振興に向けた組織体制を構築することができた。

■実績：各地域にて、合計19回開催

【富山県南砺市】

ア. 開催回数：4回

イ. 検討事項等

インクルーシブクラブ活動趣旨、進捗状況、次年度に向けた展開方法 等

ウ. 主な参加者

特別支援学校教諭、学識経験者、スポーツ推進委員、行政職員、団体職員、一般 等

エ. 開催実績

	日時	参加者	検討内容等
1	8月28日	特別支援学校教諭・学識経験者・スポーツ推進委員・行政職員・団体職員・一般	1回目会合（事業説明、事業計画について）
2	11月27日	特別支援学校教諭・学識経験者・団体職員・一般	2回目会合（事業進捗報告、今後の予定事業について）

3	1月28日	特別支援学校教諭・学識経験者・団体職員・一般	3回目会合（事業進捗報告、今後の事業内容協議等）
4	3月下旬（予定）		4回目会合（事業報告・まとめ）予定

【兵庫県上郡町】

ア. 開催回数：6回

イ. 検討事項等

インクルーシブクラブ活動趣旨、進捗状況、次年度に向けた検討 等

ウ. 主な参加者

上郡町教育委員会・上郡町障害者スポーツクラブ 上郡町社会福祉協議会 等

エ. 開催実績

	日時	参加者	検討内容等
1	9月20日	上郡町教育委員会・上郡町障害者スポーツクラブ	本プロジェクトの取り組み方針（設立準備）
2	10月12日	上郡町社会福祉協議会・上郡町	キックオフ・本プロジェクト趣旨説明
3	11月17日	上郡町教育委員会・上郡町障害者スポーツクラブ	進捗管理および状況報告
4	12月13日	上郡町・社会福祉協議会・障害者スポーツクラブ	事業進捗報告、次年度計画等
5	2月28日	上郡町・社会福祉協議会・障害者スポーツクラブ	事業進捗報告
6	3月15日 （予定）		事業進捗報告、振り返り及び次年度に向けて

【山口県周防大島町】

ア. 開催回数：6回

イ. 検討事項等

事業趣旨の確認・インクルーシブクラブの運営方法・次年度計画・インクルーシブイベント・町内出前授業等について 等

ウ. 主な参加者

周防大島町福祉課・周防大島町社会教育課・スポーツ推進委員・障害者福祉施設関係者・放課後等デイサービス・スポーツ選手・手話指導者・地域のボランティア 等



エ. 開催実績

	日時	参加者	検討内容等
1	9月	下記対象者	関係団体等協力依頼（立上げ準備）
2	10月27日	周防大島町：福祉課障害者福祉担当、社会教育課体育担当（元体育教師・校長・民生児童委員）、周防大島町スポーツ推進委員 社会福祉法人さつき園施設長、こどもサポートみらい（放デイ）代表、 有識者：B&Gリーダー（元ラグビートップリーグ選手、手話指導者）前総合型スポーツクラブ副会長）	事業説明、事業内容検討、現場見学等
3	12月18日	同上	事業進捗報告、今後の予定事業、3×3実技
4	1月14日	同上・ボランティア指導者	FID バasketボール指導状況視察
5	2月5日	同上	事業進捗報告、今後の事業内容検討、ボッチャ実技指導、インクルーシブイベント
6	3月1日	同上	事業状況報告・まとめ 等

【香川県高松市】

ア. 開催回数：3回

イ. 検討事項等

インクルーシブクラブ活動趣旨、自治体との次年度事業協議・インクルーシブイベントについての協議・次年度展開について 等

ウ. 主な参加者

スポーツ指導者・運営スタッフ・自治体パラスポーツ担当課・講師 等

エ. 開催実績

	日時	参加者	検討内容等
1	9月21日	インクルーシブクラブ講師・運営スタッフ	事業趣旨・ヒップホップダンス教室の運営内容等
2	10月14日	インクルーシブクラブ講師・高松市創造都市推進局スポーツ振興課・運営スタッフ	来年度の事業計画について
3	1月16日	講師・高松市創造都市推進局スポーツ振興課・運営スタッフ	インクルーシブイベントについて

(ウ) 指導者研修会の開催

【まとめ】

地域の障がい者スポーツを支える人材とインクルーシブクラブの運営協力者を育成するため、障がい者スポーツやアーバンスポーツ等についての知識と技術を学ぶ研修会を開催。新たな人材を育成することができた。

■実績：各地域において合計9回開催し、109名が参加

【富山県南砺市】

日 程	2024年2月16日
場 所	南砺市福野B&G海洋センター
内 容	アーバンスポーツ（トランポリン）実技・講義
講 師	笹田 節子氏（日本体操協会資格取得者）
受 講 者	8名（南砺市福野B&G海洋センター職員・放課後等デイサービススタッフ）

【兵庫県上郡町】

1回目	
日 程	2023年9月26日
場 所	上郡町B&G海洋センター
内 容	ボッチャ①（実技・講義）
講 師	上郡町障害者スポーツクラブ 西村 正規 氏
受 講 者	10名（上郡町B&G海洋センタースタッフ・障害者クラブ員）
2回目	
日 程	2023年11月28日
場 所	上郡町B&G海洋センター
内 容	ボッチャ②（実技・講義）
講 師	上郡町障害者スポーツクラブ 西村 正規 氏
受 講 者	10名（上郡町B&G海洋センタースタッフ・障害者クラブ員）
3回目	
日 程	2023年12月2日
場 所	上郡町B&G海洋センター
内 容	ボッチャ③（審判講習）
講 師	上郡町障害者スポーツクラブ 西村 正規 氏
受 講 者	12名（上郡町B&G海洋センタースタッフ・障害者クラブ員）
合 計	32名

【山口県周防大島町】

1 回目	
日 程	2023 年 12 月 18 日
場 所	周防大島町 B & G 海洋センター
内 容	アーバンスポーツ (3×3) 実技・講義、FID バスケットボール
講 師	山口県 FID バスケットボール女子チーム監督 藤原 成輝 氏
受 講 者	15 名 (地域運営委員、ボランティア指導者)
2 回目	
日 程	2024 年 1 月 14 日
場 所	山口県立防府高校佐波分校 体育館
内 容	FID バスケットボール練習視察
講 師	山口県 FID バスケットボール女子チーム監督 藤原 成輝 氏
受 講 者	8 名 (地域運営委員、ボランティア指導者)
3 回目	
日 程	2024 年 2 月 5 日
場 所	周防大島町 B & G 海洋センター
内 容	ボッチャ・レフリング
講 師	山口県パラスポーツ指導者協議会 國信 敬二郎氏
受 講 者	7 名 (地域運営委員、ボランティア指導者)
合 計	30 名

【香川県高松市】

1 回目	
日 程	2024 年 2 月 2 日
場 所	高松市国分寺 B & G 海洋センター
内 容	パラスポーツ研修会 (ボッチャ)
講 師	香川県ボッチャ協会 理事長 鈴木 仁 氏
受 講 者	15 名 (高松市スポーツ協会スタッフ、B & G 香川県内スポーツ指導者)
2 回目	
日 程	2024 年 2 月 12 日
場 所	高松市国分寺 B & G 海洋センター
内 容	講義：「知的・発達障害の理解からスポーツにつなげる」
講 師	香川県障がい者スポーツ指導者協議会 (香川県丸亀支援学校教諭) 田中 伸弥氏
受 講 者	24 名 (香川県障がい者スポーツ指導者)
合 計	39 名

(エ) インクルーシブイベントの開催

【まとめ】

障がい者と健常者がスポーツを通じた交流を図ることで障がいへの理解を促進することを目的に障がい者と健常者が共に参加するイベントとして4カ所の実行団体で実施。種目は地域の特徴に合わせて選定。併せてインクルーシブクラブで練習したアーバンスポーツなどの成果発表の場としても実施した。4自治体とも、首長もしくは副首長に視察いただき、本プロジェクトの趣旨に理解を深めていただいた。また、各実行団体も初めての試みであったため、各地域における共生社会に向けた具現化事例となった。

■実績：各実行団体（4カ所）で開催し、障がい者94名を含む、地域住民等460名が参加。

【富山県南砺市】

日時	2024年2月23日
名称	B&G インクルーシブイベント ○▲□運動会
概要	障がい児も健常児も楽しめるよう、特別ルール of 運動会。5つの運動種目を1チーム2回実施し、1回目より2回目のチームの成績を上回るように話し合いを行いながら、進行していく運動会
内容	変則玉入れ・しっぽ取りゲーム・チャレンジレスキュー・ドッジビー・ショートトラックリレー
参加者	70名（障がい者19名含む）
講師	—
参加者感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目はうまくできなかったけど、2回目はみんなと話をしうまくできたのがうれしかった。（小学3年生） ・勝ち負けにこだわらず、子供と一緒に運動を楽しむ機会ができて良かったです。（保護者）



南砺市 田中市長ごあいさつ



伝統芸能「餅つき太鼓」で選手を激励



【兵庫県上郡町】

日時	2024年1月20日
名称	車いすバスケットボール・3X3体験交流会 in 上郡町
概要	地域の就労継続支援B型作業所「愛心園」の障がい者とともに「3x3」や「車いすバスケ」の体験・交流会を実施。地域の小・中学生に「車いすバスケ」を教材として体験させることで障がい者への理解を図ることも目的とする
内容	車いすバスケットボール・3x3 体験交流会
参加者	108名（障がい者5名含む）
講師	兵庫県バスケットボール協会 KOBE DPRO（3x3プロチーム）
参加者感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段のバスケットボールとは違い、下半身が使えないことで下半身の大切さを知った。 ・ 車いすの大変さがとてもよくわかったし、車いすの人を見たら手伝ってあげたいと思った。



上郡町 梅田町長あいさつ



【山口県周防大島町】

日 時	2024年2月9日
名 称	B&G インクルーシブフェスタ in 周防大島
概 要	就労継続支援B型事業所「さつき園」に通う障がい者と周防大島町内の小・中学生のスポーツ交流会。種目は「3×3」とボッチャ・モルック。さつき園の方は、この日に向けて、インクルーシブクラブで「3×3」の練習を重ねてきた。さつき園の障がい者の方と小・中学生が合同チームを組むことで、障がい者との交流を図るほか、町内の子供たちへのパラ教育の一環としても実施。（小・中学生共に事前に出前授業でパラスポーツを学んでいる）
内 容	3x3・パラスポーツ（ボッチャ・モルック）交流会
参 加 者	132名（障がい者30名含む） <ul style="list-style-type: none"> ・「さつき園」の利用者30名 施設職員7名 ・周防大島町立大島中学校（1・2年生）生徒31名 ・周防大島町立明新小学校（5・6年生）児童32名 ※学校授業「総合型学習」の一環として実施
講 師	<ul style="list-style-type: none"> ・（公財）日本バスケットボール協会 3×3委員（3×3元日本代表）鈴木 慶太氏 ・（公財）日本バスケットボール協会 弘田 充弘氏 ・山口県FIDバスケットボール女子チーム監督 藤原 成輝氏 ・山口県パラスポーツ指導者協議会 國信 啓二郎氏
参加者感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・さつき園の方と協力して試合などしたが、ボッチャの時はナイスプレイを決めるとハイタッチしてくれて嬉しかったし、「ありがとう」とも言われて嬉しかった ・最初は自分から声を掛けることができなかったが、色々なパラスポーツをやっていくうちに自分からも話せたり、声をたくさんかけれるようになったので良い交流だった。さつき園の方からも声をかけてくれたのでより楽しかった



周防大島町 岡村福町長あいさつ



さつき園の方は、この日のために練習を重ねてきた



【香川県高松市】

日 時	2024年1月28日
名 称	高松市スポーツ少年団インクルーシブイベント パラスポーツ体験会 スポーツを楽しもう
概 要	インクルーシブクラブ「ヒップホップダンスクラブ」に通う障がい児（成人含む）のヒップホップダンス発表会と地域のスポーツ少年団の子供たちのパラスポーツ交流会
内 容	ヒップホップダンス発表会、パラスポーツ体験・交流会
参 加 者	150名（障がい者40名含む）
講 師	滝川 真理氏
参加者感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・思っていた以上にみんな張り切って踊ってくれたので嬉しかった（障がい児） ・「緊張したけど楽しかった」「心がうきうきして、みんな笑顔で楽しかった（障がい児） ・ジャンボリミッキー！が良かった。仲良くなった後に、最後にもう1回みんなで踊れたら良かったな（スポーツ少年団） ・ダンスクラブの子たちが元気よく踊っていて、私たちも元気に楽しく踊ることができました（スポーツ少年団）



高松市 大西市長あいさつ



障がい児が10月から練習したヒップホップダンスの発表の場



大西市長も一緒に踊ります



(オ) 各種会議での事例発表や情報提供

自治体執行部や地域でスポーツ指導を行うB&G指導員等に、本プロジェクトの趣旨や障がい者へのスポーツの必要性等を訴えるため、B&G財団が実施する各種会議や指導者研修会で事業報告や事例発表、障がい者の指導法についての研修会（講義・実技）を行った。

ア. B&G全国サミット（対象：海洋センター所在自治体執行部）

参加者：首長 243 名、副首長 26 名、教育長 176 名 ほか

イ. B&G全国教育長会議（対象：海洋センター所在自治体教育長）

参加者：教育長 202 名 ほか

ウ. B&G指導員研修会

参加者：全国 224 自治体からスポーツ指導者等 284 名

内 容：障がい者スポーツの必要性・障がい者への指導法の講義・事例発表（昨年度本プロジェクトを実施した静岡県御前崎市）

エ. B&G指導者養成研修

参加者：全国 18 自治体の自治体職員や指定管理者職員

内容：パラ水泳（実技）

(カ) 情報発信

B&G財団公式ホームページほか、メールマガジン、各種SNS、各地域のマスメディア等を通じ情報発信を行った

5. 事業の成果

(1) 評価指標および目標

【目標】

障がい者と健常者がスポーツを通じて交流する機会の確保と、近隣の障がい者等が身近な公共施設でスポーツやレクリエーションを実施する機会を提供する

- ・インクルーシブクラブの立上げと実施 4カ所
- ・障がい者や施設職員、健常者等、参加者数 700名
- ・指導者研修会参加者 50名
- ・運営委員会の実施と地域のステークホルダーとの関係性の構築
- ・教室プログラム事例集の作成と他海洋センターへの提供

【成果】

- ・障がい者や施設職員、健常者等、参加者数 3,051名（達成率：436%）
- ・指導者研修会受講者数 109名（達成率：218%）
- ・運営委員会の実施と地域のステークホルダーとの関係性の構築
→地域内で新たな協力者を得ることができ、インクルーシブクラブやインクルーシブイベントにも協力いただくなど、地域の関係者を巻き込み実施することができた。また、関係性の薄かった障がい者支援に携わる団体や人が、B&G海洋センターの旗振りにより、協力体制を構築したことで地域の障がい者スポーツ推進へ新しい機運が芽生えたことも成果の1つである。

- ・教室プログラム事例集の作成と他海洋センターへの提供
→財団が実施する各種会議等で、本事業の紹介や事例発表を行った。

【評価指標】

① 障がい者対象

インクルーシブクラブ参加後のスポーツ等への意識変容について、インクルーシブクラブに参加した障がい児および保護者へアンケートを行った

【障がい児】

- Q. スポーツクラブに参加して、身体を動かすことが楽しいと感じたか
「感じた」・・・95%
- Q. 次回もインクルーシブクラブに参加したいか
「参加したい」・・・100%

【保護者】

- Q. インクルーシブクラブに参加して、子供に変化があったか
「変化があった」・・・84%
「変化なし」・・・16%
- Q. 今後も定期的なスポーツ教室があれば参加させたいか
「参加させたい」・・・81%
「どちらでもない」・・・19%

考察：障がい者自身は、スポーツの楽しさを感じており、一定の成果を得たものの、「子供に変化があった」と回答した保護者は8割程度にとどまった。保護者からは、「子どもの生活にメリハリが出た」「運動する機会が少なかったので、大変ありがたい」「筋力がついた」などの意見が多かった。

② 健常者（地域住民）対象

障がい者と一緒にスポーツ交流会に参加した小学生（5・6年生）と中学生（1・2年生）ならびに、教育的観点から学校教員へアンケートを行った。

【小学生（5・6年生）】

- Q. （一緒に活動して）障がい者について理解する（知る）きっかけとなったか
「とてもなった」・・・42%
「少しなった」・・・34%
「普通」・・・21%
「あまりならなかった」・・・3%
- Q. 困っている障がい者を見かけたらどうしたいと思うか
「何か助けてあげたいと思う」・・・62%
「何もしないと思う」・・・6%
「わからない」・・・32%

【中学生（1・2年生）】

- Q. （一緒に活動して）障がい者について理解する（知る）きっかけとなったか
- | | |
|-------------|---------|
| 「とてもなった」 | ・ ・ 72% |
| 「少しなった」 | ・ ・ 28% |
| 「普通」 | ・ ・ 0% |
| 「あまりならなかった」 | ・ ・ 0% |
- Q. 困っている障がい者を見かけたらどうしたいと思うか
- | | |
|----------------|---------|
| 「何か助けてあげたいと思う」 | ・ ・ 96% |
| 「何もしないと思う」 | ・ ・ 0% |
| 「わからない」 | ・ ・ 4% |

【教員】

- Q. 子供たちにとって、障がい者への理解につながったと思うか
- | | |
|-----------|---------|
| 「とてもそう思う」 | ・ ・ 78% |
| 「そう思う」 | ・ ・ 22% |
- Q. 障がい者理解やインクルーシブを目的とした事業に子供たちを参加させたいか
- | | |
|--------|----------|
| 「そう思う」 | ・ ・ 100% |
|--------|----------|

考察：障がい者理解について、同じ交流会に参加した子供たちの回答であるが、年齢の違いにより明らかに差があり、小学生よりも中学生の方が障がい者への理解を深めた度合いが高いという結果となった。また、教員についても「子供たちにとって障がい者への理解につながったと思うか」の問いに、小学校教員よりも中学校の教員の方が、「とてもそう思う」とした回答率が高く、子供たち自身の回答と同様の結果になった。しかし、全教員が「障がい者理解やインクルーシブを目的とした事業に参加させたいか」の問いに「そう思う」と回答しており、今後ますますインクルーシブ教育は重要になってくると思われる。

③ 障がい者団体等施設スタッフ

インクルーシブクラブに参加した障がい者の変化とクラブの満足度について、施設職員へアンケートを行った

- Q. インクルーシブクラブに参加して障がい者（児）に変化があったか
- | | |
|----------|---------|
| 「変化があった」 | ・ ・ 96% |
|----------|---------|
- Q. インクルーシブクラブへの満足度
- | | | |
|-------------|------------|---------|
| 「とても満足している」 | 「まあ満足している」 | ・ ・ 85% |
|-------------|------------|---------|

(2) 結果と考察

【結果】

本プロジェクトには、障がい者や健常者（地域の子ども等）、福祉団体スタッフ等含め、延3,051名（うち、障がい者1,232名）が参加。各実行団体で、B&G海洋センターを核に、障がい者支援団体や障がい者スポーツ振興に携わる関係者等と新たな関係性を構築し、障がい者がスポーツできる環境と、子どもたちへのインクルーシブ教育など、今後の地域における障がい者スポーツ推進に向けた基盤を整えるなど、下記の成果を収めることができた。

■各実行団体において、地域の障がい者が継続的にスポーツに取り組める機会と環境を整えた

- ・地域の障がい者福祉団体と社会体育施設（海洋センター）とで、新たな関係性を構築し、障がい者へスポーツ機会を提供したとともに、障がい者と健常者が共にスポーツする機会を創出した
- ・今後の発展・継続に向け地域の障がい者スポーツ団体や人など、障がい者支援に関わる関係者等とネットワークを構築し、組織体制を整えた
- ・障がい者指導に関する新たな人材を育成した

■障がい者スポーツ事業の継続的实施（自立化・自走化）

各実行団体では、次年度も障がい者へのスポーツ教室等を継続実施することとなっており、今後の各地域における障がい者スポーツ推進の一助となった

■地域の共生社会の実現に向けたスポーツ事業を具現化することができた

障がい者と健常者合同のインクルーシブイベントやクラブの開催は、地域の共生社会の実現に向けた具体的事例として具現化できた。また、インクルーシブイベントには4実行団体とも、自治体執行部（首長もしくは副首長）が視察され、本プロジェクトへの理解を深めてもらうことができた。特に南砺市では、本プロジェクトをきっかけに、次期、南砺市「スポーツ推進計画（後期）」に障害者スポーツが明記されることとなった

【考察】

本プロジェクトは、B&G海洋センター単独では、マンパワーや障がい者スポーツのノウハウなどの観点から、地域の協力者なしでは成し得なかった事業である。障がい者スポーツは、健常者のスポーツ振興に比べ、推進が遅れていることもあり、障がい者支援団体等が独自に活動を行っていることも多いだろう。そのため、地域の障がい者スポーツ振興に向けて同じ志を持つ団体や人が連携し協力するなど、地域を巻き込み実施することが、本事業の要であると考えられる。

6. 今後の事業展開予定

(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

■全国のB&G所在自治体と情報共有し、障がい者スポーツ事業の普及を図る

B&G財団は「行政」「教育」「指導者」に関するネットワーク（プラットフォーム）を構築しており、様々な事業を全国的に普及させていくスキームを確立している。その事

業展開スキームを使い、本プロジェクトで得た成果や活動事例等をもとに、全国のB & G所在自治体に情報を共有し、海洋センター所在自治体での障がい者スポーツ普及に努める。

また、そのための課題として以下が考えられるため併せて検討していく必要がある

■ 日常的なインクルーシブ環境づくりには、更なる工夫が必要

- ・ 日常的に障がい者と健常者がともにスポーツを楽しむ環境づくりは（継続的な交流）更なる方策が必要

■ 継続化に向け、障がい者スポーツを推進するための人材育成と確保が重要

- ・ 継続的な事業推進には、核となる人材や事業をサポートしてくれる人材（ボランティア等含む）の確保が重要。自治体担当者は、人事異動もあるため、担当者が異動した場合も築いたネットワークやノウハウが次に引き継がれるよう体制を整えておく必要がある。

■ 事業の定着化（自立化）に向けた方策が必要

- ・ 次年度の継続については、各実行団体とも既に事業計画を策定しているものの、定着化に向けては更なる方策（受益者負担も含め安定した予算獲得）が必要である。

■ 事業の発展性（対象者の拡大）

事業の発展性の観点から以下の取り組みも検討する必要がある

- ・ 新たな障がい者支援団体等との連携による対象者の拡大
- ・ 障がい者スポーツを支える継続的な人材育成
- ・ 障がいの種類や障がいの部位等によって、まだ知見が乏しいため、更なる経験や事例を蓄える必要がある。また、提供メニューも増やしていく必要がある

（2）次年度以降の事業継続、横展開の計画

各実行団体とも下記の通り、次年度も引き続き「インクルーシブクラブ」等の事業を継続実施する。また、対象者の拡大や新たなプログラム導入なども計画している。

【富山県南砺市】

総合型スポーツクラブの教室メニューの一環として、次年度も今年度の事業内容をベースに実施する。また、課題にあがっていた放課後等デイサービスを卒業した子供の受け皿づくりも進めていく。

- ・ 児童、生徒を対象としたクラブ展開から一般を含めたクラブ展開へ
- ・ 障がい児に対し、運動を提供する場だけでなく、社会との交流の場として、海洋センター事業等に協力をしてもらう

【兵庫県上郡町】

次年度も愛心園の障がい者対象にスポーツやレクリエーション等の教室の計画を予定している。新たなメニューとして「車いすテニス」を取り入れるとともに、障がい者の「マリンスポーツ体験」にもチャレンジしていく。

【山口県周防大島町】

- ①次年度も「さつき園」を対象に、定期的にインクルーシブクラブを実施する。
今年度実施できなかった体育館以外のプールや艇庫での体験活動もメニューに取り入れていく
- ②周防大島の子供たちへパラ教育の実施（継続実施）
今年度実施した明新小学校、大島中学校は、次年度も継続実施。また、両校とも好評であったため、教育委員会の強みを活かし、他の学校への実施も検討。
- ③対象者の拡大とプログラムメニューの充実
「さつき園」以外の放課後等デイサービスやクリスタル（障がい児支援団体）にも参加を呼びかけ、対象者の拡大とプログラムメニューの充実（屋外での自然体験活動の実施）を図る
- ④今年度実施したパラスポーツやアーバンスポーツを通じた障がい者と健常者（小・中学生）の交流事業はもちろん、能登半島地震を教訓に防災運動会のプログラムも取り入れ、災害時に役立つ事業を検討中。

【香川県高松市】

- 次年度もインクルーシブクラブを引き続き実施する。上期と下期の2本立ての事業計画。
- ①5月～9月（上期）・・・「マリンスポーツ体験会」
 - ②10月～2月（下期）・・・「ヒップホップダンスクラブ」（定期教室）
- ※今年度同様、パラスポーツ体験会にてヒップホップダンスを披露し、スポーツ少年団との交流を図る計画。

参考資料

■南砺市（インクルーシブイベント）新聞掲載



北日本新聞（2月27日付）

■上郡町（インクルーシブイベント）新聞掲載



神戸新聞（1月22日付）



上郡民報（2月20日発行）

■周防大島町（インクルーシブイベント）新聞掲載



中国新聞（2月10日付）



アイ・キャン（地元ケーブルテレビ）



周南新報（2月17日付）



柳井日日新聞
（2月17日付）

■高松市（インクルーシブイベント）新聞掲載 等



高松市公式ホームページ（動画）見てみMyたかまつ（令和6年1月）

本報告書は、スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト」が実施した令和5年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。